

2023_1017「浅間山に沈む三日月（動画）」日々の理科 3358号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

本来「三日月」というのは、「新月から数えて3日目の月」という意味です。陰暦を使っていた時代は、新月の日が「1日」で、「月立ち（つきだち）」が訛って「ついたち」となりました。新月の2日後が「3日」なので「三日月」と呼ばれたわけです。従って「新月の翌々日の月」だけが、本来の「三日月」なのです。

三日月の月齢は計算上平均 2.25 で「非常に細い月」です。実際に「本来の三日月」は夕空で見つけるのが難しいほど細く暗い月です。一般に「あ、三日月だ！」と認識される月は、大抵「四日月」～「六日月」を指すことが多く、本当に三日月であることは、まずありません。それらは厳密には「三日月」ではなく「三日月型の月」と呼ぶのが正しいのです。

しかし、今日の夕方に見えた月は、新月から2日後の「正真正銘の三日月」でした。三日月は見かけ上、太陽との離角がとても小さいので、まるで太陽を追いかけるように沈んでしまいます。つまり、三日月を真夜中に見ることは絶対にできません。私は北軽井沢に設置したカメラで、東京から遠隔観測をしましたが「まさに三日月」という細い月が、浅間山の稜線に沈む、劇的な姿を撮影できました。

(2023年10月中旬／北軽井沢／東京からの遠隔観測)

